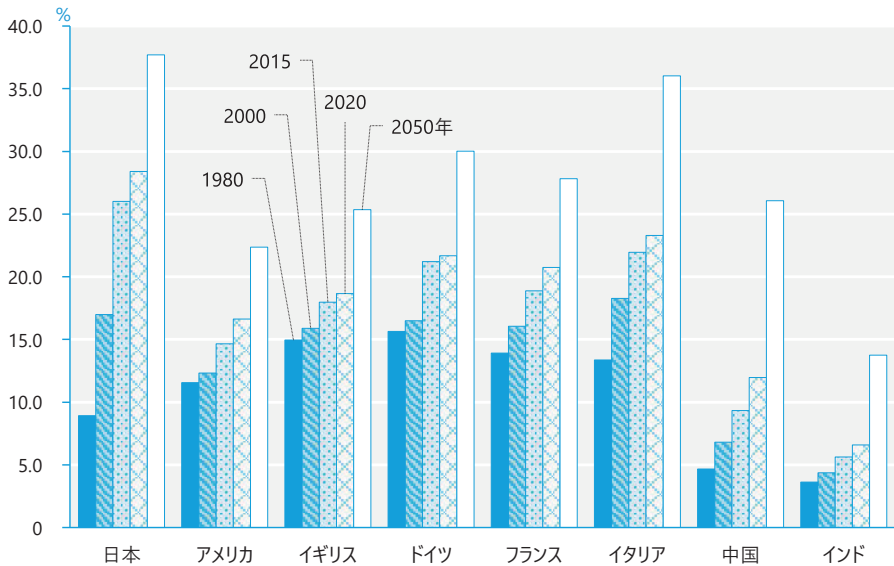


2-3 老年人口比率（65歳以上人口）



 [関連表](#) p.69「第2-5 表 老年人口（65歳以上人口）」（対全人口比率）

歴史的に低い出生率と、平均寿命の上昇により、世界各国で人口の高齢化が進展している。『世界人口予測』によれば、2018年には、全世界の65歳以上人口が初めて5歳未満人口を上回った。65歳以上人口は2050年までにさらに倍増して、15～24歳人口を上回る見込みである。結果として、老年人口比率は2019年の9.1%から、2050年には15.9%に増加すると予測される。この間、出生率は2.5から2.2に減少し、平均寿命は72.6歳から77.1歳に上昇するとみられている。

先進諸国は、世界の他の国々に比して相対的に高齢化が進展している状況にあるが、その進行の度合いは必ずしも一様ではない。老年人口比率の推移からは、アメリカやイギリスにおける相対的に緩やかな変化に対して、イタリアでは高齢化が急速に進んでいる状況がうかがえる。同種の急速な変化は、中国についても予測されている。

一方、日本では、1980年の老年人口比率は8.9%と他の先進諸国に比して低水準にあったが、その後の急速な上昇により2015年には26.0%となり、さらに2050年には37.7%に達する見通しである。